

(様式5)

## 8 学校アクションプラン

令和元年度 高岡工芸高等学校アクションプラン -1-			
重点項目	学習活動		
重点課題	基礎学力の定着と授業改善の推進		
現 状	<p>・義務教育範囲の学力が未定着であるとされる生徒(Dゾーン)が37%程度(1月の基礎力診断テストで1学年39.3%、2学年33.7%)おり、その中でも最低レベルのD3ゾーンに1学年10.1%、2学年5.4%いる状況である。Dゾーン、特にD3ゾーンの生徒は基礎的な学力が不足していることから、授業について内容を十分理解できないことが考えられ、中学校までの基礎的な学力を確実に身に付けさせる必要がある。(昨年度、基礎学力向上委員会を設置。昨年同期Dゾーン全体で40%、D3ゾーン1年15.8%、2年8.7%)</p> <p>・次期学習指導要領では、生徒達の能動性を重視する主体的・対話的で深い学びの視点から、従来の一斉指導的な授業を改善し、思考力・判断力・表現力を育成する授業への改善を求められている。そのため、各教科・科目の担当者は授業において、生徒の実態を踏まえながら能動的な活動となるように指導方法を工夫し、改善を進めていく必要がある。</p>		
	達成目標	<p>基礎力診断テストの実施と分析</p> <p>・1年生・2年生全員を対象として定期的に基礎力診断テストを実施する。 ・D3ゾーン(義務教育範囲未定着とされる最低ゾーン)の割合を0%とする。</p>	<p>公開授業の実施と授業見学・互見授業</p> <p>・担当授業を年1回以上(1,2学期間)公開する。 ・他の教員の授業見学を年1回以上行う。</p>
方 策	<p>・基礎力診断テストの結果を踏まえ、情報交換し関係教科で連携し対策を講じる。 ・基礎力診断テストを学期毎に行うことで、学力の定観測を行い、小さな目標を増やすことで、継続的な学習を行わせる。 ・朝学習(今年度より3教科)を通して学習時間を確保し、学習習慣の定着と基礎学力の向上を図る。</p> <p>・各自で担当する授業を公開する日時を掲示板で案内する。 ・公開授業を見学し、気づいたことや感想などを授業担当者に渡す。 ・互見授業により、自身の授業を改善する。 ・実施率向上のために各学期に実施月間を設け意識向上を図る。</p>		
達 成 度	<p>・基礎学力診断テストを1年生の2,3学期、2年生の全学期、3年生の1学期に実施した。 ・2学期の結果(2年生)1学期より国数英の結果が2段階(D1+→C3+)向上。数学はD3の生徒も減少。数学のみでは3段階向上。国数英のD3は15名から12名であるが、Dゾーン全体では約12%(50.6%→38.9%)であった。</p> <p>・公開授業の実施 教諭57名で延べ44回実施。(1名あたり0.77回)実施した教諭27名(0.47)。 ・授業見学 教諭57名で延べ98回実施。(1名あたり1.72、昨年度 1.55回)実施した教諭46名(0.81 昨年度0.78)</p>		
具体的な取組状況	<p>・今年度より朝学習を週2回から3回へと増やし、すべての学科の生徒が英数国の3教科に取り組んだ。それにより、6,7組の数学の基礎学力が上がり、基礎学力確認テストの数学全体の向上につながったのではないと思われる。 ・数学D3の生徒に対する補習を行った。 ・朝学習の指導に学科からの協力を得て、学科と学年で取り組んだ。</p> <p>・職員会議で今年度の目標について説明し、朝礼でも節目節目で呼びかけを行った。 ・講師を招いた授業改善の研修会を2回行った。 ・授業参観、新たな学び創造事業の公開授業以外でも、掲示板で公開授業の案内がなされ、授業の見学がしやすくなった。</p>		
評 価	<p><b>B</b></p> <p>・D3ゾーン0人の目標には達していないが、学科・学年の協力のもと学校全体として取り組んでいること、また、基礎学力が現状維持ではなく向上していることから。</p>	<p><b>公開授業 C</b></p> <p><b>授業見学 B</b></p>	<p>・先生方はいろいろと授業の改善に取り組んでおられるが、掲示板で自ら案内することへの気後れを持っておられる。 ・掲示板で個人の公開授業を案内することで、授業の見学がしやすくなった。</p>
学校関係者の意見	<p>・課題研究発表会を見学したが、年々レベルがあがっている。テーマの選定から製作・完成までの指導が素晴らしい。 ・コミュニケーション能力・伝える力は大切である。モノを作るときは、使い手のことを思いやることが大切。</p>		
次年度へ向けての課題	<p>・3学期から学年が進んだ4月で例年結果が悪化する傾向がある。3学期の結果を確認したうえで、学力が不足している生徒に対しては補習を行う。怠惰な傾向にある生徒に対しては面談等を通して、学習習慣の定着を図りたい。 ・ICTの活用や生徒の協同などいろいろと先生は工夫されているが、自ら授業を公開することに気後れされる先生が多い。声掛けなどで公開する先生、回数を増やすことで授業を見学する機会も増えていくので、授業公開と授業見学の両輪で授業の改善に努めていきたい。</p>		

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなった)

重点項目	学校生活 ～自律から自立へ～			
重点課題	基本的生活習慣の確立と危機管理能力の育成			
現 状	<ul style="list-style-type: none"> <li>• SNSの普及に伴い、利用マナーやモラルの欠如により事件、事故、いじめなど多くの危険が潜んでいる。県教育委員会との連携によるネットパトロールの報告、情報提供などを受け、生徒がトラブルに巻き込まれることの未然防止に努めている。しかしながら、SNS環境はますます複雑になっており、常に情報収集を行い、生徒の危機管理能力の向上に努めていかなければならない。</li> <li>• 交通事故件数は、昨年は目標件数を下回り、幸いに大きな事故も起きていない。しかし、いつ命に関わるような重大事故が起きるかは分からないし、加害者になるとも限らない。常に、命の大切さはもとより、モラル、マナーを高め、生徒自らが危機管理の意識を高めていくよう指導していかなければならない。</li> </ul>			
達成目標	ネットパトロールの報告件数の削減		交通事故件数の削減	
	• 年間報告件数 20件以下		• 昨年度発生件数(年間 7件)以下	
方 策	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 集会毎にSNSに関する情報提供</li> <li>• 「心」の教育、モラルとマナーの指導</li> <li>• 「いのちの大切さ」を学ぶ教室の実施</li> <li>• 個別指導</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>• 各集会毎に交通安全指導</li> <li>• 自転車点検による安全意識の向上</li> <li>• 交通安全教室の実施(1年生)</li> <li>• 個別指導</li> </ul>	
達 成 度	• 報告件数 7件(1月25日現在)		• 事故件数 3件(1月25日現在)	
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 集会毎にSNSに関する情報提供</li> <li>• 個別指導</li> <li>• 「心」の教育</li> <li>• モラル、マナー指導</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>• 交通安全教室の実施</li> <li>• 集会毎に、交通安全に対する意識の向上</li> <li>• 自転車点検による安全意識の向上</li> </ul>	
評 価	B	昨年度に比べ報告件数は多かったが、即時の対応を取り、問題が拡大することはなかった。	A	昨年度に比べ件数が大きく減少した。また比較的軽い接触事故であった。
学校関係者の意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 年間を通して大きな問題行動や事件事故に巻き込まれることもなく、生徒が安心して学習活動や学校生活を送れたように感じた。ネットパトロールでの指導は生徒間でも意識が高まっており、SNSの怖さなどを感じてきているように見える。</li> <li>• 事故にあった場合の初期対応についても集会や担任からの朝のSTなどで周知しているため、生徒の行動が迅速になっている。今後も継続して取り組んでいくべきことであると考え。</li> </ul>			
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 常に生徒には「いのち」の大切さを伝え、SNSに関する情報提供、危機管理意識の大切さを伝えていく危機管理能力の育成が必要であると考えられる。また、生徒の様々な状況把握のためにも、県教育委員会とは連携を図り、全体指導、個別指導と様々な対応が必要と考えられる。</li> <li>• 交通安全に関する指導も、加害者、被害者になることへの注意喚起、モラル、マナー指導、「命」の教育などを徹底していかなければならない。</li> </ul>			

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなった)

重点項目	進路支援		
重点課題	生徒各人が、学校生活をとおり、よりよい勤労観・職業観を身につけ、主体的に進路を選択し決定できる力をはぐくむ		
現 状	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進路指導部では、生徒一人一人の能力や適性に合わせた進路指導を目指しているが、進路担当者と生徒との接点がない(担当授業、部活動)等で就職や進学の見学会議で名前を出されても、どのような生徒か把握していない状況がある。</li> <li>・進路指導室には、就職や進学に関する資料があることを生徒には伝えてはいるが、それらを十分に、活用しているとは言い難い。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・民間企業の就職選考試験は9月16日より開始され、今年度は約139名が民間企業への就職を希望している。</li> <li>・民間企業への就職希望者の第一次選考における不合格者数は、平成27年度8人(127/135)、平成28年度9人(116/125)、29年度4人(139/143)、平成30年度4人(129/133)であった。</li> </ul>
達成目標	3学年生徒の進路指導室延べ利用回数		就職希望者第一次選考での不合格者数(民間)
	1000回以上(一人平均3.7回以上)		8人未満
方 策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・開かれた進路指導室を目指して、クラスごとに各資料の在りかや調べ方などの説明を行う。</li> <li>・進路希望先を決定する前に、進路指導室に相談に来るように指導する。</li> <li>・3学期に資料の確認、先輩の報告書の確認、進路相談等のための進路指導室利用回数をアンケートで調べる。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・各企業が求める人物や適性などをしっかりと、生徒に知らせる。</li> <li>・適性検査を実施して、その結果より本人の適性、能力について考えさせる。</li> <li>・面接時に本人の魅力や考えを十分に伝えられるように指導する。</li> <li>・多くの先生方から面接の指導が受けられるように指導計画を組む。</li> </ul>
達 成 度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進路指導室の延べ利用回数</li> <li>＜就職者＞</li> <li>進路指導室 291回</li> <li>1F選択教室 318回</li> <li>＜進学者＞</li> <li>進路指導室 314回      合計 923回</li> <li>達成度92.3%</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・一次選考での結果</li> <li>受験者 137名</li> <li>内定者 134名</li> <li>不合格 3名</li> <li>内定率97.8%</li> </ul>
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2学年末に進路指導室の利用について、各クラスごとに進路指導室および選択教室にどのような資料があるか、また、その調べ方などのガイダンスを行った。</li> <li>・常日頃より生徒への声かけをして、進路について考えさせるようにしている。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・一般常識テスト、クレペリン検査の実施。</li> <li>・外部講師および職員による面接指導。</li> <li>・求人票受付時の聞き取りに企業が求める人物・適性の把握および学年との情報の共有化。</li> <li>・企業への求人依頼。</li> </ul>
評 価	D	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目標を下回った。</li> <li>就職者の61.0%</li> <li>進学者の56.1%</li> <li>の生徒が進路の選択にあたり、進路指導室の担当者と相談をしたり、情報の提供を受けたと回答し、昨年より数値は上昇した。</li> </ul>	A
学校関係者の意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学科の特性を活かした就職先を開拓してほしい。(工芸・デザイン系)</li> <li>・求人数が増加している分、会社規模など、会社間の格差も広がっているのではないかな。</li> <li>・入社後、すぐにやめる生徒がいるようだ。我慢が足りないのではないかな。</li> </ul>		
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ネットやHPの確認で済ませたのか、進路指導室で資料の確認をしていない生徒が、就職者で57人、進学者で71人が進路指導室の利用をしていない。</li> <li>・就職では、企業のパンフレット等を調べた生徒の数が少ない(24件)ので、より多くの情報をとらえるように指導する。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎学力の向上に努める。(学期ごとの基礎力診断テスト)</li> <li>・各種テストや検査結果の情報および生徒情報・企業情報など学年との連携を強化する。</li> <li>・早い段階で明確な進路目標を設定することによる意識付け、取り組み、指導を強化する。</li> </ul>

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなった)

重点項目	学校生活			
重点課題	学校行事および部活動の充実			
現 状	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運動会、尚美展、球技大会などの学校行事の満足度アンケートの結果は、概ね80%を超えている。各行事前にはアンケート調査を実施して、代議員による生徒議会も行っているが活動が十分とはいえない。生徒議会を活性化させ、生徒会執行部と各委員会の連携を強化することが今後の課題である。</li> <li>・部活動等への参加は活発で、年度当初の特別活動加入率(生徒会を含む)は97%(兼部を含む延べ人数)を超えている。しかし、中途退部や活動が主体的ではない生徒も一部に見受けられる。昨年度の部活動退部者は約42名(内9名が部変更)であった。退部者の減少、退部した生徒の転部率を増加させることが課題である。</li> </ul>			
達成目標	主たる行事において満足と回答する生徒の割合	部活動変更生徒数		
	85%以上	40名以内		
方 策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・行事ごとに、アンケートの集約を行い、満足度を調査する。また、代議員を通じて、事前アンケートを実施し、生徒の意見集約に努め、活動および生徒議会の活性化を図る。</li> <li>・各行事における教職員の体制を常に検証し、連携の強化と協力体制の維持に努める。</li> <li>・各集会や生徒会による広報活動を通じて、大会日程および成績の広報に努め、学校全体の雰囲気や生徒の意欲を高める。</li> <li>・各部の部員数調査を年度当初と年度末に行い、部活動を変更した生徒数を調べ、関係教職員間で状況を共有する。また、各顧問と連携を図りながら、部活動の活性化と充実に努める。</li> </ul>			
達成度	満足(A)+ほぼ満足(B)で評価	部活動変更生徒数 1学期→3学期		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運動会 A47.4%+B44.8%=92.2% (昨年比-2.5%)</li> <li>・尚美展 A36.0%+B48.8%=84.8% (昨年比+3.7%)</li> <li>・球技大会 A46.2%+B43.2%=89.4% (昨年比+3.1%)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・46名退部(16名部活動変更) ※昨年度26名退部(8名変更)</li> <li>・2・3年生の新規入部 34名</li> </ul>		
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各行事の内容は、生徒会執行部が事前アンケートを全生徒に実施し、その結果をもとに計画を作成する。</li> <li>・行事後にアンケートを実施し、その結果を次年度へ反映させるようにする。</li> </ul>			
評 価	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運動会の満足度92.2% 昨年度に比べ、2.5%減少した。安全に配慮した種目変更が影響したと考えられる。また、新たにテントを増設し、熱中症対策を行った。</li> <li>・尚美展の満足度84.8% 満足度は高い。期間中に時間を持て余す生徒もみられ、活躍の場を増やす工夫が必要である。</li> <li>・球技大会の満足度89.4% 満足度は増加した。一部の競技会場の混雑緩和のため、競技内容等を検討したい。</li> </ul>	C	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全体の部活動加入率は高い。</li> <li>・今年度は46名の生徒が退部し、うち16名が新たな部活動に変更した。特に1年生の退部が多かった。新入生の部選択のミスマッチを防ぐ対策が必要である。</li> <li>・2年・3年生では新たに入部する生徒が34名おり、部活動に参加する生徒が増えた。</li> </ul>
学校関係者の意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員の働き方改革で、部活動指導の在り方が問われている。</li> </ul>			
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各行事の反省点をまとめ、改善点を次年度に反映させる。</li> <li>・特活部の職員間の連携を密にし、協力体制を整備する。</li> <li>・生徒の意見をできるだけ反映することで、各行事に生徒が主体的に参加し、充実感や成就感が体験できるよう配慮する。</li> </ul>			
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1年生の仮入部期間を設定し、ミスマッチを事前に防ぐ。</li> <li>・退部者の確認とその後の学校生活の充実を図るための面接を充実させる。</li> <li>・女子運動部の活性化。</li> <li>・指導方針、活動内容の充実を図る。</li> </ul>			

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなった)

重点項目	PTA活動の活性化		
重点課題	PTA役員会とPTA行事の活性化		
現 状	<ul style="list-style-type: none"> <li>PTAの役員会では、行事等について積極的な話し合いが行われている。</li> <li>PTA各行事への参加者が少ない。</li> <li>役員の地域的な偏りがあり、副会長の人数確保が難しい。</li> </ul>		
達成目標	役員会の出席率	PTA行事への参加者数	
	出席率75%	昨年より10%増	
方 策	<ul style="list-style-type: none"> <li>PTA通信や学校のホームページを利用して活動を積極的に発信する。特にPTA行事の際は案内を各家庭に送るだけでなくホームページを利用して情報を受け取ることができるようにする。</li> <li>一斉メールを活用した情報の共有を推進する。</li> <li>役員より行事参加のはたらきかけを積極的に行う。</li> <li>副会長の人数確保の為、クラス役員の人数を2名から3名に増加することも考えられる。</li> </ul>		
達成度	令和元年度 役員会出席率 73% (4回の平均)	<ul style="list-style-type: none"> <li>参加者数を前年度を100%とすると、公開授業107%、進路指導研修会91%、教養講座112%、自然探勝会100%</li> </ul>	
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>PTA会長や委員長を中心に役員間の連絡を密にして、各会合への参加を促すとともに、参加しやすい話しやすい会合になるよう心がけた。</li> <li>役員会の開催連絡については、担任の協力を得ながら、個別に連絡が確実に保護者に届くよう行うとともにHP等を利用して広く周知をおこなった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>行事についての連絡を、案内状だけでなく事前に一斉メールや学校ホームページを利用しておこなった。</li> <li>担当役員から、行事参加のはたらきかけを積極的に行なった。</li> </ul>	
評 価	<b>A</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>役員会3回(正副会長会議、全体役員会)の平均で目標の70%をこえた。</li> <li>不審者対策でPTAとして、昨年防犯カメラを設置したが、その後の状況を知りたい。</li> </ul>	<b>B</b>	教養講座(銀粘土教室)は参加者が増えた。手軽で作りやすく、また尚美展の展示効果も良く使用性もあるところが魅力であった。
学校関係者の意見	PTAの組織改革を実施し、PTA役員選出の方法を変えた。PTA活動に積極的に参加できる方をお願いしたい。		
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>本年度は、PTAの組織改革に着手した。これまでの新役員の選出方法を改め、保護者や組担任に大きな負担とならない方法を模索している。</li> <li>次年度も協議を継続し盤石な組織運営でPTA活動を行っていききたい。</li> </ul>		

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなった)